

お気づきだろうか、世界地図を見てユーラシア大陸の西（左）の端（極西）にある国がアイランド、東（右）の端（極東）にある国が日本である。アイランドのさらに西は大西洋、日本のさらに東は太平洋である。そして左端のアイランドと右端の日本が広大なユーラシア大陸を両耳のように挟み対峙している。そして実はこの両国は妙に似ている。両者とも周縁部にあって国土は小さい。そのメンタリティは多神教的である。アイランドはケルト民族でドルイド教という神秘主義的・アニミズム的な土俗の宗教が根底に息づき、日本では神道に代表されるように自然を尊び、神秘主義的かつ多神教的な気質が根底に息づいている。ケルト系の血筋に繋がるラフカディオ・ハーン（小泉八雲）が流浪の果てに同質のメンタリティをもつこの日本にやって来たということはひとつの奇跡であった。そしてハーンは英語で日本の真髄に触れて民話や説話や歌謡など日本のことを西洋に紹介し、東西の文化を橋渡していった。その傍に共に創造的なパートナーとしてセツという女性がいたのであった。

本年度の市民講座では遠く離れてユーラシア大陸を挟んで西端にあるケルト文化の気質をもつアイランドと相似た気質をもつ極東の日本文化との比較が少しでもできれば幸いと思っています。皆様どうぞ来てみて楽しんでください。

講師：本間康夫氏（崇城大学名誉教授）
出演：アイリッシュ・クリーム 持永道郎
演題：『「端」が育んだ独自の文化。小泉八雲が繋いだ日本とアイランドの共鳴』

講師からひとこと

昨秋から今春にかけて放送された『連続テレビ小説「ばけばけ」』を機に、小泉八雲が日本文化に与えた影響が改めて注目されています。ユーラシア大陸の西端と東端、地理的には遠く離れたアイランドと日本ですが、両国にはイングランドや中国といった強大な隣国からの圧力を常に受けつつも、独自の伝統を維持し続けてきたという、島国としての共通の根幹があります。

端に位置するからこそ、古の文化が失われずに残り、独自の進化を遂げて来たのではないのでしょうか。

本講座では、この「端」が育んだ文化の共通点に光を当てながら、どこか郷愁を誘うアイランド伝統音楽の魅力をご紹介します。

（本間康夫）

期日：令和8年5月23日（土）14：00～15：30 参加費：500円（会員は無料）

会場：お菓子の香梅帯山店ドゥ・アート・スペース（熊本市中央区帯山7-6-84 国体道路沿い）

次回 令和8年6月27日（土）

高木朝子（熊本高専熊本キャンパス准教授）「アイランド民話と日本 仮称」

※ご来場は、駐車場が狭いため公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせは熊本アイランド協会事務局へ

Tel.096-366-5151 Fax.096-372-1857 / Email:office@kumamoto-ireland.org